

校長会報

令和5年度 第1号
発行所
島根県小学校長会
事務局
松江市母衣町55
県教育会館内
TEL (0852)27-8530
FAX (0852)67-3360

未来社会を創るしまねの子供たちの 姿を見据え 連携・協働して



島根県小学校長会長

玉 木 康 之

(松江市立忌部小学校)

今年度の島根県小学校長会長に選任されました。会員の皆様方のご支援・ご協力を得ながら各事業を推進し、本会をさらに活性化させることで、島根県の小学校教育の充実を図り、子供たちの健やかな成長のために努力したいと思えます。

一 活動の方針

島根県小学校長会は結成以来、我が県小学校教育の充実・発展に寄与するため、会員相互のつながりを基盤として真摯に研究と実践を重ねるとともに、教育条件の整備に努め、多大な成果を収めてきました。このような中、今後

加速する予測困難な時代の到来を前に、子供たち一人一人には、答えのない問いに立ち向かい、多様な立場の者と協働しながら最適解や納得解を生み出す力を培い、持続可能な未来社会の創り手となることが求められています。

令和三年一月、中央教育審議会による『令和の日本型学校教育』の構築を目指して』が答申され、学習指導要領の目指す資質・能力を確実に育成するため、「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学び」の一体的な充実を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善を推進していくことが、これからの時

代の新しい学校教育の姿として示されました。私たち校長は、今まで以上に培うべき子供たちの資質・能力を明確に意識し、家庭・地域と連携した効果的なカリキュラム・マネジメントを確立するとともに、幅広い視野をもった学校経営ビジョンを示し、その実現を目指していくことが重要です。

この時期に、昨年度開催された「全国連合小学校長会研究協議会島根大会」の成果を、四年ぶりに全会員が参集して開催される「島根県小学校長会教育研究大会江津大会」へとつなげることは、子供たちの未来を見据える上での好機として捉えたいと思います。そして、しまねの校長の学びを更に深化させ、会員相互と連携・協働していく大切な機会としたいと考えます。

しまねの子供たち・教職員のために、常に前進を続ける校長会を目指すため、より一層の協力をお願いいたします。

二 主な事業内容

- (1) 総務、調査研究、対策、広報の四部会を構成して事業を推進する。
- (2) 江津市小学校長会と連携し、「第六十五回島根県小学校長会教育研究大会江津大会」を開催する。
- (3) 小・中学校長会が合同して教育条件改善対策委員会を組織し、教育条件の改善・充実を努める。
- (4) 本会の諸活動を記録し、会員の研修と連携を目的とした「校長会報」を発行する。また、HPを通して諸活動の広報にあたる。

島根県小学校長会の さらなる発展に期待します

前島根県小学校長会長

越 野 和 胤

昨年度島根県小学校長会は、松江市小学校長会の会員の皆様を中心に、全会員の皆様の多大なるご尽力のもとに、「第七十四回全国連合小学校長会研究協議会島根大会」を開催することができました。ありがとうございます。三年ぶりの全国大会でしたが、大会は新たな試みに挑戦し、全国の校長先生方に「校長の学び」を届けることができ、画期的なものとなりました。

新型コロナウイルス感染症が五類感染症となるまでの約三年間で、教育環境の整備が進みました。新しい学校教育の創造に邁進するために校長のリーダーシップが強く求められています。

ところで、教育現場は、教員不足・ICT機器の効果的な活用による授業改善・働き方改革等、課題が山積です。私の理想の学校は、「教職員が生き生きと機嫌よく働く」、「元気で魅力的な先生がいる」です。そういう学校の子どもは、楽しく学校に通うのではないのでしょうか。

校長は、先生がやりたいことを思い切ることができる環境作りに取り組み。そして、魅力ある学校づくりのために、校長同士が「連携・協働」し、その支援を島根県小学校長会が行う。本会が、そのような存在であること祈念します。

みんなで知恵を出し合って

副会長 澄川 弘敏

(松江市立城北小学校)



島根県は東西に長く、学校によって地域の状況も、児童数なども大きく異なります。

しかし、自然豊かで古くからの伝統文化が引き継がれ、温かな人情あふれる郷土という意味ではどの町も共通しているのではないのでしょうか。そして多くの町が少子高齢化、人口減少の課題を抱え、町の活性化のために子どもたちや若者と力を合わせて様々な活動に取り組んでいます。そんな中で私たち校長は学校教育という立場で次代を担う子どもたちの成長のために日々考えを巡らせ、教職員、保護者、地域と連携して学校運営に取り組んでいます。

そんな県内の校長が集い、学校として、市町村単位として、困っていることや悩んでいること、うまくいったことや改善のアイデアなどを語り合う。全国の校長会とも連携しながら島根の教育の発展のため、自ら研鑽し、協力してよりよいものを考え、次の世代につなげていく。内容によっては県や国の行政へとつなげていく。それが県校

長会の大切な役割だと考えます。

今年度調査研究部を担当させていただくことになり、改めて県小学校長会の研究大会開催に関する申し合わせ事項を読みました。そこには諸先輩方が、校長の学びを推進しつつも、担当となったブロックが加重負担にならないようにするために工夫してこられた足跡が読み取れました。

今年度、玉木会長の活動方針の中に、「今後の学校統廃合を踏まえ、校長の学びを止めることなく持続可能な教育研究大会のあり方を探るべく検討を始める」とありました。県校長会の活動がそれぞれの学校のために、ひいては県全体のためにより一層機能していけるようみんなで「つながりを大切に」して、「知恵を出し合って」いければと思います。

この一年間、微力ではありますがお二人の副会長とともに会長を支え、一生懸命務めて参りたいと思います。どうかよろしく願います。

学校のアップデート

副会長 日野 久美

(出雲市立荘原小学校)

今年度、島根県小学校長会の副会長を務めさせていただくことになりました。



た。玉木会長が示された活動方針に向けて、微力ではございますが、皆様のお役に立ちたいと思います。

さて、先日、教育情報誌を読んでいたところ、経済協力開発機構(OECD)は、ウェルビーイングと並ぶ重要な概念として「エージェンシー」を位置づけていました。

エージェンシーとは「変革を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」であり、具体的には「①新たな価値を創造する力②対立やジレンマを克服する力③責任ある行動をとる力」と示してありました。

これを受けて、文部科学省国際統括官付国際戦略企画官は「エージェンシーには倫理的・道徳的基盤が不可欠である。他者との対立やジレンマの中で折り合いをつけながら、その基盤を形成すること。そのためには子どもたちを取り巻く教師、保護者、地域住民などは共同エージェンツであり、重要な存在だ。」という見解を出しました。これは多様性を重視した個別最適な学び・協働的な学びの構築に向けた学校経営のアップデートを求めるメッセージとも言えます。

明治六年の学制から一五〇年。本校

は、開校一五〇周年を迎えます。校歌の結びは「明日の世界をつくる」。先人は、常に子どもの未来を見据えて教育活動を推進してきたのだと、その覚悟に身が引き締まる思いです。

子どものエージェンシーを「校長(教職員)のエージェンシー」に置き換えて、「自分はどうか」と日々、問い続けながら、学校経営を進めています。未来社会を創るしまねの子どもたちの育成を目指し連携・協働して取り組めるよう皆さんと共に校長会の運営に携わりたいと思います。一年間、よろしく願います。

よろしく願います

副会長 中島 恵治

(益田市立高津小学校)



今年度、島根県小学校長会の副会長を務めさせていただくことになりました。

益田管内から選出されることは四年に一度の輪番です。第一回理事評議員会がオンライン開催された後にも関わらず、副会長という大役のイメージも十分でない中、その大役が本場に務まるのかという不安でいっぱいなのが現在の率直な心境です。大変微力ではあ

りますが、精一杯役割を果たそうと思
います。

さて、新型コロナウイルス感染症が
五月八日に五類感染症に移行しまし
た。今、私たち校長には、コロナ禍を
通じて再認識された学校の役割を踏ま
えた新たな学校経営の在り方が求めら
れています。また、「教員不足」に直
結している学校における働き方改革の
更なる推進など、多くの課題がある中
で、校長の果たすべき責務の大きさを
改めて痛感しています。

これまで、私は鹿足郡と益田市で校
長として勤務してきました。日々の
様々な出来事の中で、支えていただい
たのは、各校長会での校長同士のつな
がりでした。連絡を取り合い、情報交
換する中で、新たな方針を立てたり、
判断や決断をしたりした場面が数多く
ありました。今年度もこのつながりを
土台として、さらに、県小学校長会の
活動を通して自分自身を高めていくと
ともに、学んだことを伝え広げる副会
長となるよう努力したいと考えてい
ます。

最後になりましたが、玉木会長をは
じめ新役員、事務局、各市郡の理事の
皆様とともに、鳥根の小学校教育の充
実・発展と教育諸条件の整備、校長会
の更なる前進に向けて、この一年間、
県小学校長会の運営に携わっていきま
す。どうぞよろしくお願いいたします。

令和五年度 鳥根県小学校長会

事業計画

*鳥根県小学校長会

(1)活動の具現化、事業の推進を図るた
めの会議の開催、関係団体の会議へ
出席する。

①理事・評議員会(一回)、理事会
(三回)、常任理事会(一回)を開
催する。

※四月理事・評議員会、七月常任理
事会をオンライン会議とする。

②理事会は、総務、調査研究、対
策、広報の四部会を構成して事業
を推進する。

③第三回理事会の中で、県教育委員
会との意見交換会を実施する。

④県の各審議会等に関係団体として
参加し、小学校教育の立場から意
見を反映させるとともにその目的
達成に寄与する。

(2)学校経営に関する諸課題を究明し、
本県小学校教育の振興と校長として
の職能向上のために、江津市小学校

長会と連携を深めながら研究大会を
開催する。

○第六十五回鳥根県小学校長会教育
研究大会江津大会

(3)本県教育の充実を図るため、小・中
学校が合同して教育条件改善対策委
員会を組織し、関係機関と連携を密
にしながら教育条件の改善・充実に
努める。

(4)本会の諸活動を記録し、会員の研修
と連携を目的とした「校長会報」を
発行する。また、ホームページを通
して諸活動の広報にあたる。

(5)教育計画や教育活動の記録等、日々
の教育実践の効率化を図るため、「教
育記録」の編集を行い、定期的に改
訂していく。

(6)今後の学校統廃合を踏まえ、校長の
学びを止めることなく、持続可能な
教育研究大会の在り方を探るべく検
討を始める。

*全国連合小学校長会、中国地区小学
校長会との連携

(1)全国連合小学校長会と連携して教育

課題を究明し、課題解決にあたる。

①総会や理事会および各種委員会や
担当者会に参加し、全連小との連
携を推進する。

②「小学校時報」を購読するととも
に、教育研究シリーズの購読を促
進し自己研鑽を深める。

全連小の考え方や新しい教育
情報、教育改革の動向、全国の校
長会の活動を迅速に伝える「全連
小速報」を活用し、学校経営に生
かす。

③全連小と連携し、陳情・要望活
動・実態調査活動を行う。

(2)中国地区小学校長会と連携し教育課
題を究明し、課題解決にあたる。

①理事会・研修会・連絡協議会(一
回)、理事会・研修会(二回)に参
加し、連絡調整を図る。

②「第七十回中国地区小学校長会教
育研究大会鳥取大会」に参加し、
中国地区小学校長会との連携や学
びを深める機会とする。

はじめまして
新任校長より

心の安全基地づくり

横野 吉人

(安来市立宇賀荘小学校)



顔写真でなくイラストで……。原稿執筆を担当させていただくにあたり、個思いや個性を尊重いただけるとの島根県小学校長会に感謝申し上げます。

さて、「心の安全基地」という言葉をご存じでしょうか。アメリカの心理学者が提唱した、もともとは人間の愛着行動に関する考え方の言葉です。

子どもの現状として、自己肯定感が低い、自尊心がもてない、言われたことはするが自分から進んで取り組めない、チャレンジ精神が弱い等がよく挙げられます。わたしはこの安全基地という言葉に出会ったとき、心のよりどころとなる安全基地づくりが、先に述べた子どもの様々な課題解決の鍵になるのではないかと考えました。

子どもは本来、好奇心や探求心、冒険心や向上心をもっていきます。多くを一度にはできませんが、子どもが本来もっている力を発揮できる「心の安全基地としての学校づくり」にひとつひとつ取り組んでいきたいと思います。

子どもたちも教職員も日々成長していけるような学校となるようがんばります。

吉田 光良
(美保関小学校)



竹がしなやかに「伸びる」ように、子どもも職員も一緒に「伸びて」いきます。

子どもたちが、
玄関の記念碑に刻まれている言葉
「強く かしく すなおな子」
に育つよう、がんばります。

俵 裕樹
(飯梨小学校)



『みんなの笑顔輝く佐太小学校』
になるように、子どもたち、
教職員、保護者・地域のみなさん、
全員の力を1つにしてがんばります。

伊藤 英俊
(安田小学校)



㊦かるく元気な子
㊩のちを大切に思いやる子
㊦しく、よく考える子
そんな子どもたちに負けないようにがんばります。

教職員の“雑相”を大切にし、
自分を大切にまわりも
大切に子どもを育みます。

小山 美子
(佐太小学校)



毎日、「元気モリモリ 母里っ子」
に元気をもらって
学校生活を送っています。

藤原 陽一
(秋鹿小学校)



勝部 雅之
(南小学校)



大森 俊一
(母里小学校)



地域に支えられて



野田 孝秀
(雲南市立掛合小学校)

四月十日、二、六年生が元気よく登校してきました。着任式での子供達のキラ

キラした瞳、元気なあいさつがとても印象的でした。新しい学年のスタートに胸を膨らませていることが伝わってきました。その日の入学式の準備では、五、六年生が、自分の作業を終えりとすぐに友達の手伝い、一生懸命に準備する姿に心打たれました。

入学式では新入生十三人を気持ちよく迎えることができました。在校生の歌やお迎いの言葉は、はつきりとして元氣にあふれ、新入生にしっかりと届いていました。

次の日から、どの登校班の班長も、新入生を気にかけて、何度も振り返りながら歩いていました。

掛合小学校の子供達の素直で思いやりのある姿は、家庭や地域の支えによって、学校生活の中で表れていると実感しました。今までの伝統を大切にして、子供達のさらなる成長のために努力していきます。

「**か**よく**ん**きょう**る**き
まっしぐら」な子供の育成に、職員と共に努力していきます。



川崎 隆祥
(鍋山小学校)

子どもたちの成長、
コウノトリの成長をみんな
で喜び合いながら進んで
いきたいと思ひます。



佐貫 晃弘
(西小学校)

「寺領っ子 夢見る力が
未来をつくる」という
児童会テーマのもと、
76人の子どもたちが明るく
元気にくらしています。
子どもたちの笑顔から、
いつも元氣をもらっています。



常松 浩
(寺領小学校)

子どもたちとともに、
明るく楽しい学校を
つくっていききたいと思ひます。



大森 伸一
(木次小学校)

「よく考え やさしく つよい
窪田の子ども」を、教職員・
保護者・地域と共に目指します。



松井 誠
(窪田小学校)

にっこり
しっかり
ダッシュ
合言葉通り笑顔の素敵な
西田っ子と一緒に
頑張ります。
よろしくお願ひします。

「地域が元氣、子どもが元氣、
伊野小学校が元氣」
元氣の三刀流をめざし、
教職員と共にごんぱります。



渡部 秀文
(伊野小学校)

「元氣に登校し、しっかり学び、
笑顔で帰る」ことのできる学校を
目指してごんぱります。



山本 芳正
(朝陽小学校)



岩井 五月
(西田小学校)

ご縁に感謝

毛利尚子

(浜田市立雲城小学校)



四月から雲城小
校で再び勤務するこ
とになりました。雲
城小学校は教諭時代

に勤めた思い出深い学校です。また、雲
城小のある金城町とのご縁も深く、旧小
国小学校、今福小学校を含め、十四年目
の金城町勤務となりました。

着任して間もなく、「校長先生の顔を
見に来たよ。」と、当時お世話になった
方が訪ねて下さいました。思いがけな
い再会に、それまでの緊張がほぐれてい
くような気がしました。また、始業式で
は、懐かしい校歌に胸が熱くなりました
。記憶を辿り、歌詞に込められた思い
をかみしめながら一緒に歌いました。い
ずれも、雲城小学校の校長になったから
こそ味わうことのできた喜びです。私
は、この日の感動をずっと忘れずにいた
いと思っています。

十年前と変わらず、「くもぎっこ」は、
明るく素直で人懐っこいです。いただい
たご縁に感謝しながら、子ども達、職
員、保護者や地域の皆さんの幸せのため、日々努力していきます。

世界遺産の街並みに
癒やされる毎日。
素敵な子どもたちのために
頑張ります。



橋井 泰治
(大森小学校)

子供たち一人一人が笑顔で
いきいきと活動できる学校を
地域と共に創っていきます。



小銀 康之
(亀嵩小学校)

“ちっちゃな学校の
でっかい教育”で
4人の子どもたちと
一緒に高尾を
盛り上げていきます。



古藤 康則
(高尾小学校)

初めての石見勤務です。
一つ一つの出会いを大切に、
みんなが「大好き」と思える
学校であるようがんばります。



別所 由紀
(朝波小学校)

「みんなで創る かがやく
旭小学校」を合言葉に、
かがやく姿を見つけていきます。



花田 健司
(旭小学校)

「自分も楽しく
みんなも楽しく」を
合言葉に、だれもが互いに
認め合い高め合う頓原小を
めざします。



角 圭祐
(頓原小学校)

「プチ改革」と「うるおいプラス」
を合言葉に頑張っています！



和田 正利
(長久小学校)

みんなが かがやく
わたしたちの学校
を合言葉に児童と教職員が
かがやける学校を目指します。



川神 幸
(美川小学校)

大樹の根っこ

房野 伸枝

(益田市立東仙道小学校)



教職について以来、ずっと中学校勤務でしたので、小学校での経験は大学の教育実習のみの私ですが、この度、小学校長として赴任することに。迎えてくれたのは、今年が創立一五〇周年を迎える東仙道小学校と校庭の二十五mを超えるヒマラヤ杉の大樹でした。

二学期制や朝礼がないこと、中間休み……中学校との違いに戸惑う中、「あのね、校長先生……」と自分が得意なことを笑顔で健気に話してくれるかわいい子どもたちに、私の笑いジワは日々、増えております。

この子たちが中学生になり、大人へと成長するための大事な六年間。あの大樹のように逞しく、伸びやかに成長して欲しい。そのために「根っこ」の部分をしっかりとして張らせたい。」そう心に誓う春となりました。



楽しく学び、
楽しくかわるために、
「あいさつ・返事・片づけ」
を共に心がけていきます。



大田 謙二
(朝倉小学校)

初めての小学校勤務です。
子どもたちの笑顔と素直さに
元気をもらっています。

「みんなで創るきらめく
桜江小学校」をスローガンに、
笑顔あふれる学校づくりを
めざします。



南 博喜
(桜江小学校)

海を見晴らす校舎と元気な
いそっ子が自慢の磯小です。
「かがやき」を合言葉に
がんばります。



和田 政幸
(青原小学校)

「チーム木部」として、
子どもも大人も共に育つ学びを
協働していきます。



中西 直也
(磯小学校)

「星ヶ丘」の名称がある本校で、
子どもたちの輝きが、
より一層増すように努めます。



澤江 健
(木部小学校)



伊藤 広志
(高原小学校)

学校紹介

豊かな地域素材でふるさとへの誇り
をもち、学ぶことの楽しさを味わう

高橋 雄 司

(大田市立温泉津小学校)

平成二十三年四月、温泉津町の四小学校(温泉津小学校、湯里小学校、井田小学校、福波小学校)が統合され、現在の温泉津小学校が誕生しました。海、山、川の自然環境に囲まれ、多くの児童はスクールバスを使用して毎日通学しています。

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」が校区内にもあり、銀の積出港「沖泊港」や銀の輸送路「温泉津沖泊道」があります。また、「ヨズクハデ」「西田葛」「温泉津焼き」「温泉津温泉」「メロン栽培」「殿島海苔」「和牛飼育」「ウミネコの飛来地」「不言城」など、実に多くの学習素材があります。

年度始めには、各地域コーディネーターの方々と担任を中心に、学習の年間計画を相談する会を開きます。その計画を基に、児童の地域学習を進め、本校ならではの体験型学習が各学年で展開されます。

例えば、和牛共進会への参加、海苔

すきやヨズクハデ作り体験、メロンの摘果作業と収穫体験などがあります。正



に地域の「ひと・もの・こと」から多くを学んでいます。そして、価値ある歴史や伝統、産業や文化を守り受け継いでいる人もたくさんいます。

さらに、学校図書館には、これらの地域素材を分かりやすくまとめた手作り学習資料があります。

学校司書がそれぞれの地域素材を取り出し、文献を紐解き、児童が取り組みやすい内容に編集しています。学習の導入、あるいはまとめの段階でも活用できます。

AI(人工知能)の急速な発達により、子どもたちが生きる未来社会がどのような社会になるのか、予測が不能と言われています。だからこそ、より豊かな体験活動と学びを通して、感じる力や思いやる力、愛する力など、点数化やデータ化できない人間らしい心の耕しを学童期に可能な限りさせたいと考えています。



一人ひとりの「声」に心を傾けて

大庭 泰 二

(吉賀町立六日市小学校)

チリン チリン!

全校児童九十一名と全職員が一緒に給食をとるランチルームに、お知らせの合図を伝えるベルの音が響きます。

「健康委員会からお知らせです。今日の昼休みに「ふえ鬼」を企画しました。参加できる人は一時五分に校庭に集まってください。みんなの参加を待っています。」

昼休みに校庭に出てみると、ほとんどの児童・職員が集まっています。山間の小さな学校に子どもたちや教職員が楽しそうな声が響いています。

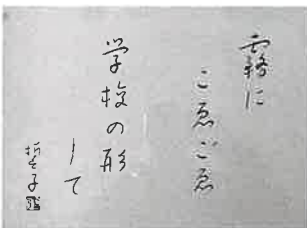
霧にこぼる

学校の形して

誓子

校長室の壁に掛けてあるこの句は、

昭和三十五年に旧六日市町を訪ねた山口誓子が学校近くの高台にある公園あたりを散策していたときに詠んだ句です。校長室に遊びに来る児童



がよく「校長先生これなんて書いてあるん?」なんて尋ねてきます。僕にとつて、とてもうれしい質問です。

「六小つ子! めざせ 一人立ち!」本校の学校教育目標です。一人立ちをめざす原動力は「安心・安全・つながり」であると考えています。安心して自分の思いを吟味し、安心して自分の思いを表現する(表現しない)ことが認められる学校。そして、様々な人との「つながり」を大切にしたい学校。前述の委員会活動での異学年交流はもちろん、ICTを活用したつながりも活発です。代表委員会では「ジャムボード」を利用した話し合い活動、公民館の方も参加する「クラスルーム」では子ども達と公民館主事の方とのダイレクトな交流も行われています。

五月も朝晩は急激に気温の下がる吉賀町。今朝も校門に立ち、振り返ると校舎は朝霧に包まれていきます。学校にかかわるみんなの声と「声にならない声」に心を傾け学校を形づくっていききたい。そう思いながら今日も子ども達を迎えます。



令和5年度 島根県小学校長会 役員表

役名	校長名	勤務校	役名	校長名	勤務校
会長	玉木康之	忌部	全連小理事	玉木康之	忌部
副会長	日野久美	荘原		澄川弘敏	城北
	中島恵治	高津	全連小代議員	中島恵治	高津
	澄川弘敏	城北		安達利幸	宍道
監事	川田勝巳	母衣	中国地区理事	澄川弘敏	城北
	梶谷悟	今市		安達利幸	宍道

理事

市郡名	会員数 (学校名)	理事名	評議員名	対策委員名
松江	31	岩成佳子(川津)	田中宜夫(八雲) 川中勝巳(母衣)	伊達悟(鹿島東)
安来	17	㊦ 難波真章(赤江)	江戸宣文(十神)	㊦ 門脇岳彦(井尻)
出雲	33	布野光信(神西)	木色泰樹(須佐) 梶谷悟(今市)	佐野美保(北浜)
雲南	15	㊦ 小田川徹哉(三刀屋)	三賀森卓司(海潮)	㊦ 三賀森卓司(海潮)
仁多	10	㊦ 長谷川勝一(阿井)	加藤春生(鳥上)	㊦ 千原一弘(馬木)
飯石	4	竹下透(志々)	(理事兼務) 竹下透(志々)	㊦ 角圭祐(頓原)
浜田	16	佐々木伸(石見)	宇野正一(周布)	㊦ 上部孝雄(原井)
大田	13	矢田悦夫(大田)	石田勇(久手)	㊦ 坂田幸義(川合)
江津	7	㊦ 舟木志郎(高角)	田中岳志(川波)	㊦ 南口周哉(江津東)
邑智	11	大屋裕二(瑞穂)	上田忠則(大和)	中村卓夫(阿須那)
益田	14	渋谷秀文(益田)	有福保(吉田)	㊦ 宮崎晃(鎌手)
鹿足	9	㊦ 中尾瑞紀(津和野)	糸賀昌幸(蔵木)	大田謙二(朝倉)
隠岐	9	㊦ 林明範(都万)	宇野陽子(北)	㊦ (増本邦雄)(西郷中)

(会員数 189)

㊦印 常任委員会 理事

㊦印 教育条件改善対策委員会 理事

㊦印 小・中代表

事務局幹事

校長名	勤務校	会務分掌	所在地	☎・FAX	校長名	勤務校	会務分掌	所在地	☎・FAX
野津明久	乃木	対策	690-0044 松江市浜乃木5-1-10	0852-21-2032 FAX 0852-21-2819	片寄泰史	内中原	対策	690-0873 松江市内中原町225	0852-22-0300 FAX 0852-21-0833
田中晶子	中央	広報	690-0002 松江市大正町398	0852-27-2700 FAX 0852-21-3733	濱岡宏行	恵曇	調査研究	690-0323 松江市鹿島町手結201	0852-82-0065 FAX 0852-82-0931
小林裕昌	竹矢	調査研究	690-0025 松江市八幡町379-1	0852-37-0535 FAX 0852-37-2814	徳永勝俊	生馬	対策	690-0865 松江市西生馬町8	0852-36-7614 FAX 0852-36-6104
小山美子	佐太	広報	690-0332 松江市鹿島町佐陀本郷1186	0852-82-0185 FAX 0852-82-0769	安達利幸	宍道	総務・ 事務局長	699-0401 松江市宍道町宍道1276	0852-66-0352 FAX 0852-66-0565
佐藤淳	大庭	総務	690-0033 松江市大庭町1074	0852-21-4239 FAX 0852-21-4311	建岡浩子	事務局	事務局員	690-0886 松江市母衣町55 島根県教育会館内	0852-27-8530 FAX 0852-67-3360
杉原孝尚	来待	広報	699-0405 松江市宍道町上来待125	0852-66-0051 FAX 0852-66-0052					

事務局 〒690-0886 松江市母衣町55 島根県教育会館内

TEL (0852)27-8530 FAX (0852)67-3360

E-mail: shimane-syo@gold.ocn.ne.jp